

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

PARC 三河安城

〈提案の趣旨〉

私たちは今回、「PARC 三河安城」を提案する。本作品のタイトルには Playing And Relaxation Crossing（活動とくつろぎの交差）の意味が込められています。

コンセプトは【**まちをつかうみんなが起こすアクティビティの交差点**】で、PARC 三河安城ではまちに住む人、まちに来る人、まちに泊まる人など、まちをつかうみんなが活動し、くつろぐ。それぞれが起こす多様なアクティビティが交差することでみんなが使いたくなる、使い続けたくなる場の創出をする。



本提案において“トレーラーハウス”を用いた理由として、自動車などの輸送用機械器具製造業が主要産業となっている安城市ならではの提案である。そして、トレーラーハウスを用いることで広場の空間レイアウトを自由に変えられる。例えば、多目的交流拠点が完成し、アリーナで三河シーホースが試合する際には子供にバスケ体験ブースの提供や、グッズ売り場、パブリックビューイングなどイベント仕様に変更することが容易にできます。このように、可動性、柔軟性により、まちの様々な需要にこたえることができる。

建物のポイントとしては大きく分けて2つあります。1つ目は、建物を“円く”することで人々の視線を多様な方向に向け、視線の交錯が生まれます。角があると死角が生まれたり、視線の交錯が生まれづらいため、円くして視線が様々な方向に動くようにしていること。2つ目は縦ルーバーを外壁に用いた建築である。縦ルーバーを使用することで外からでも中の様子が確認でき、中からでも外の様子を見ることが可能になる。また、夜になると建物内部の光がルーバーにより外部に漏れだすため、駅前が明るい空間になり、夜でも内外の両方に滞留を生み出すことが可能になる。

本提案をまず三河安城駅前の対象敷地広場に展開し、駅前の賑わいを創出する。そして、今後この提案をモデルケースとし、土地区画整備事業の際に作られ、余っている公園・広場も活用し、街全体に賑わいを創出する。

また、4年後を見据えて、トレーラーハウスの可動性、柔軟性により、多目的交流拠点と関連づいた多様なイベントを開催することができる。PARC 三河安城でバスケットボールイベントを開催することでアリーナとの相乗効果により、まちがつかわれ、賑わいがうまれる。

本提案で、まちのみんなが使いたくなる持続可能な場を目指す。